

## 本年度の学校評価

本年度の 重点目標	「拓く力の育成」  「基礎力」を身につけ、「課題解決力」・「コミュニケーション力」を高めることで、自己の未来を切り拓く力を育成する。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
学校経営	生徒・保護者から信頼される学校づくり	①生徒や保護者及び地域からの要望にじっくり耳を傾け対応する。	・生徒・保護者や地域の方々からの様々な意見・要望には誠実に耳を傾け対応する。また、それらの意見・要望を教職員が共有し、実現・改善につなげる。
		②職員の不祥事防止に努める。	・職員会議をはじめとして様々な機会を通じて不祥事に関する通知文や新聞報道等を共有し、職員の職務に対する意識を高める。
	危機管理体制の構築	①不審者、災害、事故など様々な危機に対する管理体制の見直しと改善を行う。	・現在の防災・防犯・事故等に対する危機管理マニュアルを見直し、より現実に即した内容とする。 ・学期毎に実施する防災避難訓練により、職員・生徒の意識の高揚を図る。
		②個人情報の管理の徹底と個人情報の保護、管理、漏洩防止等について全職員の意識の向上を図る。	・通知文等を回覧し、職員会議等で注意を呼びかける。 ・新聞記事等に掲載された内容を具体的事例として回覧する。 ・USBなどのメモリ媒体の保管状況を定期的に点検する。
地域への情報発信と企業との連携	①学校の活動について様々な媒体、機会を利用し、情報発信する。 ②企業との連携を深め、社会が求める人材についての情報を収集する。	・学校の教育活動について、保護者や地域の方々に、文書またはHP等を使って発信し、理解を深めていただく。 ・要請に応じて中学校に出向き、教員向けの説明会を実施する。 ・企業を訪問し、就職を希望する生徒が身につけておかなければならない事柄等についての情報をより多く収集する。	
学習指導 (教務部)	学習指導の充実	①中学校までの学習内容と関連を図る。	・生徒の学習の状況をよく見て対応する。 ・内容を精選し、繰り返し学習する。
		②習熟度別授業を実践する中で、生徒が主体的に取り組める授業を工夫する。	・プリントや視聴覚教材を活用し、必要に応じて具体的なものに触れさせ、わかりやすい授業を展開する。
		③定期考査前後の授業後に学力補充週間を設け授業中の理解不足を補う。	・個別指導を行う。学力補充の機会を増やす。 ・必要に応じて外国人生徒を対象に母国語サポータとの連携を図る。
	規律ある授業の実践	①授業時の遅刻、中抜け、無断早退の禁止指導を徹底する。	・日頃から声をかけ、根気強く指導していく。 ・遅刻・早退届などにより「連絡」「報告」を意識させる指導を行う。
		②必要に応じて授業中、巡視・見回りを実施して授業規律を達成させる。	・日頃から声をかけ、根気強く指導していく。 ・授業担当者だけでなく、複数の目で指導が行われるようにする。
		③指導カード・状況報告書により授業規律の達成を図る。	・講師の先生にも、指導カード・状況報告書を活用してもらう。 ・授業の大切さを生徒に教える。
評価の充実	①定期テストの得点だけでなく、いろいろな方面から学習の評価を行う。	・日々の授業への取り組みやノート・課題の状況等を総合的に判断して評価する。 ・観点別評価の趣旨を理解し、授業の在り方、それに伴う評価の在り方を常に改善する意識を持つ。	
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立と定着及び、いじめの未然防止・早期発見に係る取組の充実	①授業態度向上に向けて取り組む。	・始業時・終了時の挨拶、礼を習慣づける指導をする。 ・たち歩き・携帯電話・ゲーム機・その他授業妨害に対する指導を徹底する。（指導カード・状況報告書の活用）
		②SNS等の情報モラルについて指導する。	・集会等でSNSへのかかわり方の指導をする。 ・トラブル防止のため、初期段階での聞き取りを行う。
		③欠席、遅刻、早退の事前連絡指導を徹底し遅刻率を減少させる。	・家庭との連絡・連携を緊密に行う。 ・多遅刻生徒への意識改善指導を実施する。
		④頭髪に関する見だしなみ指導をする。	・全ての教職員の協力を得て、気づいたときにその場で指導する体制づくりをする。
		⑤毎学期、学校生活調査を実施する。	・いじめ未然防止のため初期段階の把握と開取りを行う。 ・問題行動の隠れた部分の情報集約と開取りを行う。 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングにつなげることでの生徒理解と把握に努める。
交通安全指導の充実	①重大な交通事故を起こさせない指導をする。	・効果的な交通安全指導を行う ・運転マナーの指導を充実させる。	
進路指導 (総務・進路指導部)	就職意識の向上	①LT等を利用して、就職意識の高揚を図る。	・学期ごとに就職状況調査を行い、就職の動向の把握に努める。 ・アルバイトをしていない生徒に就職について考えさせる機会をつくる。
		②就職先や各種進学等の情報を提供する。	・具体的な求人票等を提示し進路先の就業内容を理解させる。
		③クラス担任を主に、全職員と連携して適切な指導を行う。	・生徒の希望を聞き適宜指導を行う。 ・自分から進路先を考えられるように指導する。 ・全職員で連携し適切な進路指導を行う。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項	
保健活動 （保健厚生部） （給食）	基本的な健康生活習慣を確立し、生涯にわたり主体的に健康管理できる生徒の育成	①本校生徒が抱える健康課題の改善に取り組む。	・健康診断や健康調査から本校の健康課題を見つけ、全体・個別指導を通して、健康課題を改善できるように働きかける。	
		②外部講師に依頼し、保健講話を開催する。	・生徒の状況を把握し、保健講話の内容を選定し、健康に対する自己管理能力を育てる。	
	食育指導	望ましい食習慣を確立させる。	・手洗いの重要性を指導し、習慣をつけさせる。 ・給食をマナー良く、大切に食べるように働きかける。	
工業科実習 （機械科）	安全作業に重点をおいた作業の基礎の習得	①作業において火傷、切り傷など、怪我のないように指導する。	・作業において、事故・危険について全学年始業前点呼で注意し、終了点呼で安全に作業ができたかを確認する。	
		②作業の「準備」「方法」「片付け」を正しく身に付けさせる。	・作業を細かく分けて説明したり、繰り返し手本を見せることで、生徒の理解度を上げる。 ・作業能力の低い生徒に対しては個別に指導する。 ・作業によっては教員の数を増やして、安全に作業できる環境を整える。	
教職員	生徒の状況把握と適切な対応	①生徒の様子を全職員で日々観察する。	・登下校・ST・授業・給食・行事など様々な場面における生徒の動向を注意深く観察し、その状況に関する情報を教員間で共有する。	
		②生徒の相談に親身になって応じる。	・常に、生徒の発言に対して聞く耳を持ち、丁寧に対応することを心掛ける。 ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの利用を促す。	
	特別支援教育	①特別支援体制を充実させる。	・特別支援教育コーディネーターを中心に、中学校その他外部機関との連携を密にしながら、支援を必要とする生徒の実態把握に努めるとともに、保護者・本人からの要望を大切に支援体制を構築する。 ・個別の指導計画等を作成し、持続性のある指導を心掛ける。	
		②職員の特別支援に対する知識を向上させる。	・特別支援教育にかかわる外部講師を招いて職員研修を実施する。	
		③外国籍につながる生徒及び保護者への支援体制を充実させる。	・必要に応じて該当生徒が所属する学年の考査をルビ付きの問題とする。 ・保護者会において外国人教育支援員の活用を充実する。	
	家庭との信頼関係	①生徒の学校での様子を保護者に知らせ、連絡を密にする。	②学校の教育方針・連絡事項等を保護者に周知する。	・合格者説明会・入学式・保護者会などで、学校の教育方針について説明し、理解を得る。 ・長期休業前には休業中の留意事項等の文書を郵送することで全ての保護者に通知する。 ・保護者の来校時等には、学校の指導方針や指導内容を理解し、協力してもらえるよう丁寧に説明する。 ・保護者が生徒に関わる時間が少ない様子なので、学校から親子の会話を促す意味もこめて連絡をする。
			③欠席、遅刻、早退の事前連絡を徹底させる。	・保護者からの連絡を原則とするが、できない場合には、生徒から連絡を徹底させ、授業後に様子確認のため、必要に応じて改めて学校から保護者又は本人に連絡する。
多忙化の解消			①在校時間の状況記録を確認し、教職員の心身の健康障害防止に努める。	・1か月間の時間外労働が80時間を越える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無を確認する。 ・年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導目標や運営方針の明確化</li> <li>・生徒の実態に即した教科指導</li> <li>・全職員の公正かつ公平な指導</li> <li>・いじめや校内暴力等に対する毅然とした指導</li> <li>・進路についての適切な指導</li> <li>・学校行事への取り組み</li> <li>・教員の研修への姿勢</li> <li>・苦情や要望への迅速な対応</li> <li>・業務の適正化と教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特色を生かす取り組み</li> <li>・個々の能力に応じた補習等の手立て</li> <li>・問題行動等への組織的な取り組み</li> <li>・安全に配慮した指導</li> <li>・保護者への通知</li> <li>・生徒理解に努める指導</li> <li>・個人情報管理</li> <li>・学校徴収金等の適正化</li> </ul>	

## 前年度の学校評価

### ア 自己評価結果等

本年度の重点目標	「自立する心を育てる」 そのために		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学校経営	生徒・保護者から信頼される学校づくり	①生徒や保護者及び地域からの要望にじっくり耳を傾け対応する。	日頃から担任を中心に生徒や保護者とのコミュニケーションを密にしており、問い合わせ等はほとんどない。また、地域からの苦情や要望もない状態である。
		②職員の不祥事防止に努める。	「不祥事防止チェックシート」による個人個人の行動の確認やその後の面談、報道された不祥事に関する具体的事例を共有することで不祥事防止についての意識の高揚を図っている。
	危機管理体制の構築	①不審者、災害、事故など様々な危機に対する管理体制の見直しと改善を行う。 ②個人情報の管理の徹底と個人情報の保護、管理、漏洩防止等について全職員の意識の向上を図る。	一・三学期には防災避難訓練、二学期には防災訓練として備蓄品の点検確認及び設置を生徒自身の手で行うことで、生徒自らが緊急時に行動できる体制づくりをしている。 「個人情報の管理・保有状況について」の調査実施とともに、各定期考査前後及び各学期末などに成績データを中心に生徒の個人情報の正しく厳重な保管の徹底を呼びかけている。
地域への情報発信と企業との連携	①学校の活動について様々な媒体、機会を利用し、情報発信する。 ②企業との連携を深め、社会が求める人材についての情報を収集する。	主に中学生及びその保護者向けに「学校案内」の紙面を順次修正し、現状を伝えている。 就職・アルバイト等に関連して、企業とのつながりを大切にし、生徒の勤務状況や募集状況についての連絡を密にしている。その結果、多くの生徒がアルバイトに従事できている。	
学習指導 (教務部)	学習指導の充実	①中学校までの学習内容と関連を図る。	中学校の授業に出ていない生徒が多く、中学校の内容そのものを行う必要がある。基礎的な内容を繰り返し行うことが重要である。
		②習熟度別授業を実践する中で、生徒が主体的に取り組める授業を工夫する。	少人数なため、きめ細かい指導を行うことが出来ている。
		③定期考査前後の授業後に学力補充週間を設け授業中の理解不足を補う。	理解不足であったり、学習の確認であったり、生徒それぞれが目的を持って補習を行っており、受けている生徒には効果がある。
	規律ある授業の実践	①授業時の遅刻、中抜け、無断早退の禁止指導を徹底する。	生徒指導部と連携した段階的指導や欠課時間の取扱いにより、一定の効果あげている。
		②必要に応じて授業中、巡視・見回りを実施して授業規律を達成させる。	適宜であっても、授業中の巡視や見回りは、授業規律の正常化に寄与しており今後も継続していきたい。
③指導カード・状況報告書により授業規律の達成を図る。		特に1年生については、問題行動に対して一定の抑止効果となっていると感じる。 上級生については、自浄能力に授業規律を保つことができるようになってきた。	
評価の充実	①定期テストの得点だけでなく、いろいろな方面から学習の評価を行う。	プリントや授業中の発言、学習意欲などを含めて総合的に評価を行うようになった。	
生徒指導 (生徒指導部)	基本的な生活習慣の確立と定着及び、いじめの未然防止・早期発見に係る取組の充実	①授業態度向上に向けて取り組む。	授業態度が悪い生徒には、その場で教科担当や担任から指導を行い、それでも反省の態度が見られなければ生徒指導部からの指導や、保護者連絡という形で全職員が協力して取り組むことができている。
		②SNS等の情報モラルについて指導する。	特に長期休暇前の指導において、具体的な例を出しながら、情報モラルについての指導を行うことができている。また人権指導の際に講師を呼び、SNSに関する情報モラルについての講話をして頂いた。
		③欠席、遅刻、早退の事前連絡指導を徹底し遅刻率を減少させる。	無断での欠席や遅効をした場合には、担任から保護者連絡をし、家庭との連携をはかっている。
		④頭髪に関する見だしなみ指導をする。	一昨年度より、過度な染色を禁止した。特に長期休暇明けに染色の目立つ生徒が出てくるため、その際の指導を徹底した。
		⑤毎学期、学校生活調査を実施する。	1学期に2回、2・3学期に1回ずつ計4回実施できている。気になる回答をした生徒には、個人的に面談を行った。
交通安全指導の充実	①重大な交通事故を起こさせない指導をする。	各学期に車輛点検と交通安全指導をそれぞれ1回ずつ、年間計6回実施している。例年1年生に交通事故が多い傾向にある。	
進路指導 (総務・進路指導部)	就職意識の向上	①LT等を利用して、就職意識の高揚を図る。	始業式・終業式等で全体に就職の話をして、就職意識を高めた。
		②就職先や各種進学等の情報を提供する。	4年生に対して、就職・進学先の情報を適宜提供した。
		③クラス担任を主に、全職員と連携して適切な指導を行う。	全職員で就職面接指導等を行った。
保健活動 (保健厚生部) (給食)	基本的な健康生活習慣を確立し、生涯にわたり主体的に健康管理できる生徒の育成	①本校生徒が抱える健康課題の改善に取り組む。	学期が終わる毎に受診報告書を配付したが、実際に受診に至った生徒は少ない。ただ、個別指導を通して、所見があるという自分の状況や、受診する必要性は理解できた生徒が何人かいた。
		②外部講師に依頼し、保健講話を開催する。	講話前に生徒にアンケートを実施したため、興味関心を引く内容にすることができた。ただ、健康に対する意識を高めるためには、講話後も健康だより等で働きかける必要があった。

	給食前の手洗いの習慣化	給食前には、アルコール消毒または石けんを使い手洗いをする。	手洗い場にポンプ式石鹸とペーパータオルを設置した。さらに監督の教員を配置することにより、手洗いを徹底することができた。しかし監督者がいないと、手を洗わない生徒がいるため自発的な手洗いを習慣化させる必要がある。
工業科実習 (機械科)	安全作業に重点をおいた作業の基礎の習得	①作業において火傷、切り傷など、怪我のないように指導する。	全学年始業点呼で体調管理や実習作業において、事故・危険行為について確認することができた。実習作業を細かく別けて説明したり、繰返し手本を見せて理解力をあげることができた。また作業能力の低い生徒にも、個別で指導し安全に課題を完成できた。
		②作業の「準備」「方法」「片付け」を正しく身に付けさせる。	実習作業で「準備」「方法」「片付け」などは手本を見せて確認して、急がず確実に論して身につけさせる事ができた。個々の能力の差や語学力の低さに苦労することが多くなってきた。
教職員	生徒の状況把握と適切な対応	①生徒の様子を全職員で日々観察する。	担任による日々の健康観察を養護教諭が集約することで、注意すべき生徒を洗い出し、その生徒についての情報共有を職員全体で共有したり、スクールカウンセラーにつなげる事に役立っている。
		②生徒の相談に親身になって応じる。	月に一回程度の来校ではあるが、スクールカウンセラーを有効に活用し、生活等に不安を抱える生徒の相談に丁寧に対応している。
	特別支援教育	①特別支援体制を充実させる。	1年生については、合格者説明会や入学式での説明会において相談のある保護者（生徒）に残ってもらい、個別の相談を受け、その後全職員で情報を共有している。
		②職員の特別支援に対する知識を向上させる。	特別支援教育コーディネーター研修会等での研修内容を教職員で共有している。また、スクールソーシャルワーカーによる校内研修を実施し、教職員の意識の高揚を図ることができた。
	家庭との信頼関係	①生徒の学校での様子を保護者に知らせ、連絡を密にする。	生徒の欠席・早退・早退だけでなく、学校であった小さな変化も見逃さず、可能な限りその日のうちに保護者に連絡をするようにしている。
		②学校の教育方針・連絡事項等を保護者に周知する。	合格者説明会、入学式において学校の方針を細かく説明し、理解を得ている。また、生徒指導部、教務部からの保護者への重要な文書については郵送している。また、成績不振・多欠課・問題行動等、保護者との面談を必要とする場合は来校してもらい直接説明している。
		③欠席、遅刻、早退の事前連絡を徹底させる。	始業時にいない場合は、担任から生徒、保護者に連絡することを続けてきた結果、無断欠席はほとんどなくなってきた。今後、遅刻についても連絡を徹底させることが課題である。
	多忙化の解消	①在校時間の状況記録を確認し、教職員の健康障害防止に努める。	一人で複数の分掌を兼務するなどの状況があるが、勤務時間外従事時間をなくすために、業務内容の精選及び職員間の業務の平準化にむけて努力している。
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の重点目標の中で、「三守」の一つとしてあげた「時間を守る・規則を守る・礼節を守る」は欠席・遅刻・早退の総数、特別指導の件数、退学者数の減少からみると、以前よりかなり改善されている。ただし、欠席等に関しては、まだ改善を要する生徒もいる。社会人として必要な基本的な生活習慣の確立のため粘り強く指導を続けたい。</li> <li>・「三習」としてあげた基礎学力の向上については教員によるさまざまな工夫をしているが、満足のいく結果につながっているとは言い難い。今後も授業改善に向けての校内外での研修に学校として、また個人として取り組む努力を続けたい。</li> <li>・「三技」に関しては機械科の授業を中心としたきめ細やかな指導により、工業人としての基本的な心構えと知識・技能が身に付きつつある。また、教員からの呼びかけに応じて、「基礎製図検定」「計算技術検定」など各種検定に積極的に取り組む姿勢を見せる生徒もおり、今後その数を増やしていきたい。</li> <li>・一部の業務の見直しにより、分掌間の平準化を図った。</li> </ul>	

## イ 学校関係者評価結果等

全日制と同じ